

# 事故予防対策のためのリスクマネジメント

## <リスクマネジメントカード作成について>

学校生活上での事故防止を図る場合、具体的に **誰が、どのような局面で、いつの時間帯に、どんな場所で**事故のリスクが存在するのか、そこに事故の存在リスクが存するのはなぜか、どのように対処すれば事故を未然に防ぐことができるのかという視点が必要である。

万が一事故が生じたときにも、それが教職員の注意力や技能の問題として終わるのではなく、学校の事故防止対策としてのシステムの問題としてとらえることが重要になる。

そのために、ハイリスクの児童生徒(事故が起こる危険性の高い児童生徒)に対し、リスクマネジメントカードを作成し、事故防止を図りたい。

※リスクマネジメントカードは事故後のクライシスマネジメントにも対応し、迅速かつ効果的な事後措置ができるよう作成される。

### 1 対象児選定

- ・保健調査:保健室発信の調査用紙による情報(主治医からの文書を含む)
- ・保護者からの情報
- ・日常生活の様子:担任を中心とした教師からの情報

等を元に

事故や疾病の悪化による重篤な状況が予想される児童生徒で、養護教諭もしくは担任が必要と判断した児童生徒を候補とし、保健係会で決定する。(管理職へは回覧し、決裁を仰ぐ)

### 2 内容

- ・てんかん発作
- ・アレルギー
- ・転倒等による外傷
- ・誤嚥
- ・原疾患の悪化
- ・パニック 等による 自傷 他害 等

予想されるリスクに対して、最新の情報を添付し、対策をまとめる

### 3 作成手順

順序	実施者	内 容
1	養護教諭	(案)を作成
2	養護教諭	各部教頭に該当者のリスクマネジメントカード(案)を配布
3	教 頭	校内委員会を開催。決定内容を学年主任へ配布
4	学年主任	内容を確認し、各担任へ配布
5	担 任	保護者との個人懇談の際に提示し、共通理解を行う。 また、保護者からの最新の情報があれば追加する。 (鉛筆書きでよいので、カードの余白に記入)
6	担 任	追加した情報の入ったカードを養護教諭に提出する。 内容の変更がなくても、変更無しと記入し、提出する。 ※早急に提出する。
7	養護教諭	情報を追加したカードをエクセルで再作成する。 完成したカードはまとめて起案し、校長まで回覧する。 個別カードは各部ごとに教頭へ配布する。 カードの元情報はすべて養護教諭が管理 (サーバー内:アクセス権養護教諭・管理職のみ)する。
8	教 頭	内容を確認し、学年主任へ配布
9	学年主任	内容を確認し、各担任へ配布
10	担 任	カードの内容を該当児童生徒に関わる教員へ周知徹底させる。 カードは個人用のカルテにファイルし、いつでも確認できるようにしておく。